



ごあいさつ

保健医療学部長 大日向 輝美

コロナ禍における学修・学生生活への影響は予想を超えて長期化しており、保護者の皆さまのご心配も一入のこととお察しいたします。コロナ感染に係る大学の行動制限は道の方針に連動し、講内への立入を禁止し授業を全てオンラインで行う「制限大」のレベルから、オンラインで代替不可能な演習・実験・実習は感染拡大防止に配慮して対面で実施可とする「制限中」のレベル、感染拡大防止措置に基づく対面授業を可とする「制限小」のレベルを都度変更し、学部としては対面重視の方針で対応しています。また、保健管理センターによりいち早く作成された「新型コロナウイルス感染対策ハンドブック」に基づく厳格な健康管理、学部の感染対策グループによる環境感染対策と、局面に応じて実施する感染対策ガイダンスにより、学内での感染は生じることなく現在に至っています。



9月末からの後期授業も大学の制限レベルに則しての対応となりますが、ワクチン接種が進んできたこともあり、可能な限り対面で実施したいと考えています。しかしながら、学生数の関係で面積の広い教室が十分でなく、対人距離の確保のために登校を制限し、使用教室を調整せざるをえないのが実状です。臨床/臨地実習につきましては、受入れ施設と協議・調整の上、患者・学生の安全・安心を考慮した簡易抗原検査を取り入れつつ、最大限実施する予定としています。なお、今後もオンライン授業や感染対策に関する学生調査を適宜行い、学生の意見を改善に反映させていきたいと考えています。

コロナ・ワクチンに関しましては、4、5月の医療関係者接種と9、10月の職域接種により、大方の学生の接種が完了します。ブレークスルー感染への注意は必須ながら、社会の動きと歩調を合わせた制限緩和を検討する予定です。

保護者の皆さまにおかれましては、今後ともご支援・ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
(R3.9.22)

【令和3年度 前期学事 実施報告】 (1~4学年)



(4学年共通)

4月 7日~4月9日 「保健医療総論1~4」
4月12日~ 前期講義開始
6月25日 大学記念日

(3年生)

8月 4日~8月27日
8月30日~9月10日
8月30日~9月17日
9月13日~

夏季休業
前期定期試験(看護)
" (理学・作業)
臨地実習 (看護)

(1・2年生)

8月 4日~8月27日 夏季休業
8月30日~9月17日 前期定期試験

(4年生)

4月12日~
5月10日~
7月26日~8月 9日
7月15日~7月30日
8月 9日~9月10日
8月 2日~8月20日
8月23日~

臨床実習 (作業)
臨床実習 (理学)
夏季休業 (作業)
前期定期試験(看護)
夏季休業 (理学)
" (看護)
臨地実習 (看護)

2 学年副学生担当教員よりごあいさつ

看護学科（澤田准教授、浅利講師）



看護学科の2年生副学生担当教員の澤田と浅利です。看護学科は副学生担当教員が1学年に2人ずつ配置されており、学籍番号の前半および過年度学生を澤田が、学籍番号の後半の学生を浅利が担当しています。保護者の皆様におかれましては、日頃より本学の教育についてご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。



2020年度より、コロナ禍のため授業形態を変えざるを得ない状況が続き、これまで普通に行われてきた対面による講義や演習が制限され、実習においてもベッドサイドで直接対象者の方とお話ししたり、ケアを提供したりすることも時間が制限されている状況です。また、その影響は学習だけではなく、大学祭の中止、友人らとの交流、部活動やバイトなどの課外活動にも及び、大学生生活で楽しみにしていたであろうこれらの体験をできない状況にもあります。学生にとって、とても辛い状況にあり、保護者の皆様も心を痛めていることと存じます。そのようななかでも、学生は将来医療職となるという自覚から、本当にがまん強く耐え、学習に対して前向きな姿勢を維持してくれています。本当に“偉い”“頼もしい”と感じています。この思いに応えるべく、学生の安全を第一に、学習効果が最大限に得られるよう、教員一同尽力しております。

長きに及ぶ制限生活は、体力だけでなく学習経験への自信のなさや将来の不安など、心身の健康にも影響してくるものと考えます。ぜひ、皆様のお子様は健康に日々の生活を送れるようにご支援いただきますようお願いいたします。自信をもって卒業していただける日を目指し、保護者の皆様と協働して行きたい思います。（浅利剛史）

理学療法学科（谷口教授）



日頃より本学理学療法学科の教育にご協力を賜り、ありがとうございます。現2年生の副学生担当教員として昨年4月のオリエンテーション以降、副学担補佐の岩本えりか講師とともに学生の大学生活を見守っております。この1年半、学生は入学時に思い描いていた様々な活動に多くの制限がかかり、心身ともにストレスを抱える毎日を過ごしてきたと思われまます。遠隔授業の日も続き、クラスメイトとの繋がりが深められない懸念もありましたが、今年4月、1年遅れの入学式に21名全員が参加し、明るい雰囲気です学生同士が交流している様子を見て安堵しました。登校が難しい日々も多いなか、コロナ禍にめげず学生自らが創意工夫して人間関係を築く姿勢は、柔軟に対応する適応力の高さを感じさせてくれました。

一方、感染拡大の状況に連動して頻回に変化する授業形態の影響を受け、1年次の平均的な成績は例年と同程度であるものの、学修成果に学生間の差がやや見受けられます。10月より開始する2年次後半の教育カリキュラムは3年次からの専門科目を効果的に学習するために演習・実習の割合が増えてゆきます。適宜、個別面談も含めながら学生に寄り添いつつ、自己研鑽と能動的学修を促し個々人の能力を最大限に向上させられるように学習面や生活面の親身なサポートを心掛けます。ポスト・コロナの時代を担う学生が新たな理学療法の世界を切り拓いてゆけるよう多様で柔軟な教育に努めてまいります。保護者の皆様におかれましては、ご健康に留意いただき、引き続きご支援をよろしく願いいたします。

作業療法学科（森元講師）



新型コロナウイルス感染症の影響で様々な苦労や不便を感じながらの生活が続いております。本学科では、前期は遠隔授業を中心に、感染対策に最大限配慮しながら対面での指導が必要な演習授業を対面授業で実施して参りました。演習授業よりも講義科目が多い1、2年生においても、他学科・他学年が登校する曜日を避けるなどの調整をしながら対面授業の曜日を設定しました。顔を合わせて授業をしていると、感染症の心配や行動制限の継続による疲弊の中でも着実に学習を進めていることを実感します。後期も苦しい状況は続きそうですが、その時に必要な配慮と最大限の工夫をもって学生の成長につながる教育を実践して参ります。

作業療法学科の教員は、学外活動の一環として（公社）北海道作業療法士会での活動に従事しております。その中の1つに道内の作業療法士の卒後教育があり、現在も多くの教員が各種研修会の企画者・運営委員・講師として携わっております。特に今年度は専門領域ごとに卒後教育のカリキュラムを組み、週1回のオンライン研修を全10回、継続的に開催する新人教育シリーズを実施しております。直接顔を合わせての学習や情報交換ができないのは残念ですが、仕事をしながら継続的に学習できるのはオンライン研修の大きなメリットであると感じます。大学での学習からのつながりで卒後教育を展開できることも本学科の強みの1つです。学生の皆さんの卒業後の活躍も見据えて、作業療法学科教員一同で教育に心血を注ぐ所存です。保護者の皆様におかれましてはご自身とご家族の健康に留意され、引き続きご支援を頂ければ幸いです。

行事紹介

令和3年度保健医療学部保護者説明会

教務委員長 小塚 直樹

8月21日土曜日の午後、3時間の時間枠で令和3年度保健医療学部保護者説明会をWEB形式で開催しました。41名（看護学科:18名、理学療法学科:15名、作業療法学科:8名）の保護者のご参加をいただきました。ご多忙な中、ご参加いただきましたことに、この場をお借りして御礼申し上げます。

今回の内容は、「学部の全体説明会」、「各学科の説明会」、「個別相談会」の三部構成としました。全体説明会では「コロナ禍における授業と学生生活」をテーマに、令和2年度から3年度前期までの本学の行動指針とその推移に応じた授業運営、感染対策等に触れながら教員学生が一丸となり取り組んだ状況の説明とその厳格な体制で学部内の感染事例がなく経過したことをお伝えしました。各学科の説明会では、三学科（看護、理学療法、作業療法）がそれぞれのグループに分かれ、学科毎の教育方針や学科の特徴をお伝えしました。特に医療職教育に必須の臨床実習の代替措置に関しては、各学科の創意工夫のもと、本学学生の特性に配慮した臨床推論/判断を養成するコロナ禍におけるカリキュラムの説明を詳細に行っています。その後、希望者に対する個別相談会では、事前に伺っていた「学生生活」、「成績」、「進路」に関するご質問に各学科の担当教員がお応えしました。



（開催の挨拶：大日向学部長）

終了後に実施したアンケートにおいては36名の方にご回答いただき（回収率87.8%）、概ね「満足をいただけた」旨の好評をいただいております。お寄せいただいた自由意見の中には、今後の企画へのご希望などの建設的なご意見のほか、多くのお礼を含む感想をお寄せいただきました。WEBで行うメリットは遠方からのご参加が容易になります。また大学学部の施設を見学したいとのご意見もあり、状況が許せば遠隔と対面の混合型（ハイブリッド）での開催も検討したいところです。今回このイベントを企画運営した教員/事務組織では、これらの内容を十分に吟味し、改善をしながら次年度の開催へと繋げたいと考えております。皆様におかれましては、次年度に向け引き続きご理解いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



（看護学科説明：今野学科長）



（理学療法学科説明：小塚学科長）



（作業療法学科説明：松山学科長）

施設紹介

札幌医科大学では、時代の変化に応じた質の高い教育環境や学生が自主的に勉学できる環境、研究機能等の充実や学生の交流の場となるオープンスペースの確保等のため、新たな大学施設の整備を進めております。その一環として、令和3年3月に「学生ホール」が完成いたしました。2021年度オープンキャンパスに係る保健医療学部紹介においても紹介しておりますので、下記URLより是非ご覧ください。



※URL:<https://www.youtube.com/watch?v=xShNdwYJars>

教員紹介（医療人育成センター：化学 有木准教授）

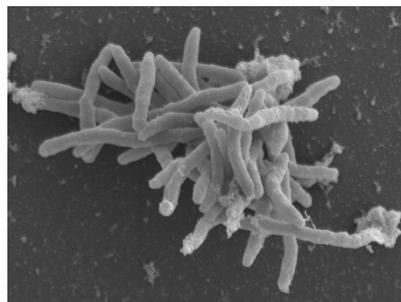
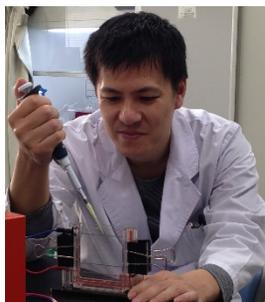


医療人育成センターは、保健医療学部・医学部の教育や大学運営に関わる組織です。中でも私が所属している教養教育研究部門は、両学部の一年生を中心とした講義や実習を担当しています。

化学には“複雑な化学構造式や物質名を覚える暗記科目”というイメージがどうしても付きまとい嫌われがちです。特に、保健医療学部には高校で文系だった学生さんも多く、苦手意識が強いように感じます。そのようなイメージを払拭するべく、講義内では化学構造の説明を必要最小限にとどめ、生命活動と化学物質の関わりを中心に解説しています。また、「コレステロールは本当に悪者か」、「血液型占いは信じられるか」、「なぜ北国の冬に日光浴は大事なのか」など、普段の生活でも耳にするような話題を取り入れることで、化学をより身近なものと感じてもらえるように努めています。講義を受けているときには実感しにくいかもしれませんが、化学の知識は専門科目を履修する過程や医療従事者として現場で働き始めてからも役に立つはずで。たとえば、栄養の代謝が運動や病気によってどのように変化するのか、薬剤がどのように作用するのか、体内のpHがどのように保たれているのかなどを理解するには化学の知識が基盤となります。講義を通して少しでも化学に興味をもってもらい、さらに深い学習への動機付けとなっていれば嬉しいです。

私の研究生活の始まりはカブトガニ（生きた化石といわれる生物です）の自然免疫機構の研究でした。カブトガニで研究というと、「???」という反応が返ってくることが多いですが、エンドキシンテストというかたちで医療にも貢献している生物です。現在はヒトの呼吸器を対象にして自然免疫機構に関わるタンパク質の機能解析をしています。これらのタンパク質が感染微生物からからだを守るだけでなく、炎症の制御やアレルギーの抑制など多様な機能を果たしていることが分かってきています。

医療人育成センターには、色々なバックグラウンドを持った教員がいます。講義に関係しない話をする機会はなかなかありませんが、様々な分野の教員の話聞けるのは大学ならではのメリットだと思います。講義以外での接点が少ないので、話しかけにくい印象もあるかもしれませんが、研究室の門をたたいてみてください。新しい世界が広がるかもしれません。



【令和3年度 後期学事予定】（1～4学年）

（4学年共通）

9月27日～ 後期講義開始
 10月11日～ "（3年生・作業）
 12月3日 文化芸術祭
 3月18日 卒業式

（3年生）

9月13日～2月25日 臨地実習（看護）
 9月27日～10月8日 臨床実習（作業）
 12月20日～1月3日 冬季休業
 1月24日～1月28日 後期定期試験（理学）
 1月31日～2月25日 臨床実習（理学）
 2月15日～3月4日 後期定期試験（作業）

（1・2年生）

12月～ 臨床実習（2年生・理学）
 12月20日～1月3日 冬季休業
 1月～ 臨床実習（2年生・作業）
 1月24日～1月28日 臨床実習（1年生）
 1月31日～2月10日 臨地実習（2年生・看護）
 2月15日～3月4日 後期定期試験（1・2年生）

（4年生）

9月27日～11月19日 臨地実習（看護）
 12月20日～1月3日 冬季休業